

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について

1 実施日 平成31年 4月18日(木)

2 対象学年 第3学年生徒84名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語、英語「話すこと」)

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

上記①と②を一体的に問う。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

4 調査結果

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語はおおむね全国平均と同程度、英語「話すこと」は、全国平均を下回りました。

○国語においては、「相手に分かりやすく伝わる表現」では正答率が全国平均を上回りました。「文章の展開に則して情報を整理し、内容を捉える」ことに課題が見られました。

○数学においては、「反比例の表から式を求める」では正答率が全国平均を上回りました。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」ことに課題が見られました。

○英語においては、「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」では正答率が全国平均を上回りました。「文の中で適切に接続詞を用いることができる」ことに課題が見られました。

○英語「話すこと」においては、「月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる」では正答率が全国平均を上回りました。「交通手段に関する基本的な表現を理解して応答することができる」ことに課題が見られました。

(2) 生徒質問紙調査

成果が見られた項目

○「先生は自分のよいところを認めてくれている」と思っている生徒が多いです。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と思っている生徒が多いです。

○ほとんどの生徒が将来の夢や目標を持っています。

○ほとんどの生徒が家で自分で計画を立てて勉強しています。

○新聞を読んでいる生徒が多いです。

○ほとんどの生徒が部活動に大変意欲的に取り組んでいます。

○ほとんどの生徒が国語、数学、英語の勉強が好きで、大切だと思っており、授業の内容もよく理解しています。

課題が見られた項目

●「自分にはよいところがある」と思っている生徒が全国平均より低いです。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と考えている生徒が全国平均よりも低いです。

5 学力向上の取り組み

国語、数学、英語において、課題が見られた項目について課題が解決されるように取り組むとともに、本校では次の3点について重点的に取り組んでいます。

- ・電子黒板、デジタル教科書等のICT機器を効果的に使い、生徒の興味・関心を高め、画像や映像、音声により理解を促す授業を実施していきます。
- ・主体的に話し合いを行うことができる活動を多く設定し、相手の考えをもとに自分の考えを再構築したり、発展させたりして自分の考えを広げ深めていけるような言語活動を充実させます。
- ・授業のまとめや振り返りの場面で家庭学習について触れることで、帰りの学活でより具体的な家庭学習計画をSPL（家庭学習計画記録）に立てられるようにして家庭学習を充実させ、自己マネジメント力の育成につなげます。

6 現在表われている成果

本校では学力向上とともに、心の教育と生徒指導の充実、健康で忍耐強い生徒の育成に努めており、次のような成果が表れています。

- ・市の学習実態調査では、各教科の基礎問題の正答率において、全国平均を上回る数値が出ています。
- ・生徒会が中心となった「いじめやめよう5つのプロジェクト」をはじめ、生徒の自主的・自発的な態度が養われてきています。
- ・中体連大会においては8種目が県大会に出場し、活躍しました。
- ・相馬流れ山踊りの練習に2・3年の女子生徒が取り組み、相馬野馬追当日に勇壮な踊りを披露するなど、郷土の伝統文化の継承に寄与しています。

7 保護者・地域の皆様へ

生徒の学習環境・生活環境づくりについて、次の点で家庭や地域の方々のご協力をお願いいたします。

○家庭学習について

- ・家庭学習時間の確保、学習に集中できる環境づくり

○読書について

- ・家庭で読書する習慣づくり

○良い生活習慣づくり

- ・ノーメディアの時間をつくるための家庭での取り決め

○地域行事等への参加

- ・多くの人とのふれあい